

学校教育目標

**ともに生きる社会をつくる子どもを育てます**

児童の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

本校の児童は進んで話しかけ、素直に自分を出せる子が多い。裏表なく自分を表現し、進んで関わりがもてる子たちである。その反面、自尊感情は低く、自分を大切な存在と感じている子は少ない。それが「自分を認めてほしい」気持ちとなり、ほめられることを求めている。しかし、規範意識や人の気持ちを考えて行動する力が不足しており、子ども同士のトラブルはとても多い。また、自分の気持ちを言葉でうまく表現できない子も多い。

「豊かな心の育成」に関する指導の目標・方針

- ・ 人権教育に対する組織的な取組を推進する。
- ・ 人権が尊重される授業実践の推進をする。
- ・ 中村特別支援学校との交流活動による相互理解を深める。
- ・ 外国籍、外国につながる子の文化や習慣を理解できる取組を推進する。
- ・ ふれあいなかよし班を中心とした縦割り活動やNOAの取組を通して、児童の自主性や主体性を育て、達成感や成就感を味わえるようにする。
- ・ 学習に関わる人材を活用し、自分の役割や職業感、人の生き方を考える教育を推進する。

指針3 確かな人権感覚・意識の育成

☆人権教育全体計画に基づき、全教育活動を行う中で、自他の大切さを認め合い、安心して生活できるようにします。（視点6）

- ・ 人権教育に対する組織的な取組の推進
- ・ 人権が尊重される授業実践の推進
- ・ 中村特別支援学校との交流によるねらいをもった共同学習の推進

<具体的な取組>

- 人権教育全体計画に基づく教育活動の改善を毎年行う。
- 「人権教育を語り合う会」を実施し、「アさん」を中心とした学級づくり、授業実践を公開する。
- 中村特別支援学校との交流活動について、その目的や活動のねらいを価値づける。
- 国際理解週間の中で、外国の文化や習慣を体験的に理解できるようにする。
- ふれあいなかよしタイムやNOAの取組から、高学年のリーダーシップを育てる。
- 学習に関わる様々な人材を活用し、「人の生き方」を考えるキャリア教育を推進する。